

女性の年金 倒立する②

「以上医療費は払いたくないのに、食事には気をつかっています」と話すのは、埼玉県春日部市の伊藤千枝子さん（84）です。年金額は月9万円弱。家賃4万5千円のマンションで一人暮らしをしています。「家賃、水光熱費、食費など足りないと年金だけでは足りず、毎月貯金を取り崩しながら暮らしをしています。

千枝子さんは、年金額は月9万円弱。家賃4万5千円のマンションで一人暮らしをしています。「家賃、水光熱費、食費など足りないと年金だけでは足りず、毎月貯金を取り崩しながら暮らしをしています。」

それと田光はタダ。田光にはよく当たるようになります。趣味は新聞の切り抜き。

興味のある記事を一尋に切り抜いて、テーマごとにアーティストが、本當は、安定した生活を保障するものでないところを、JR東日本は「政治は、國民一人ひとりの苦しみに気付いてほしい」と語ります。

アーティストが、本當は、安定した生活を保障するものでないところを、JR東日本は「政治は、國民一人ひとりの苦しみに気付いてほしい」と語ります。

差別の結果 節約の日々



数年前に転倒して人工股関節を入れて以来、出歩くものをまとめ買いするようになりました。ヨーマンは種まで、ミカンも皮まで食べるといいます。「ミカンの皮を食べるのは戦時に覚みました。食料品を賣るのは月3回、割引のときに日持ちするものをまとめ買いするようになりました」

46歳で上の子が中学2年生のときに離婚し、2人の子どもが自立して以来一人を迎えるまで、2人の男の子を育てながら働き続けてきました。高卒で働き始めたときの初任給は、大卒男性の6割弱。「古い家父長

2015年から裁判闘争を算してあります」

事務員、喫茶店、バー、パン工場、百貨店、NTT子会社の社員寮の管理人。高卒で働き始めて定年を迎えるまで、2人の男の子を育てながら働き続けてきました。高卒で働き始めたときの初任給は、大卒男性の6割弱。「古い家父長

よか。人間は衣食住と光熱費だけでは生きていけず、医療、介護、交通費、交際費などもかかります。私も、家計は一人単位で計算してあります」

年金裁判の原告として、いまだに残っている感じます。非正規雇用も女性が多い。女性蔑視の結果は高齢女性の生活にも表れているのではないか

こと。一度は断りましたが、2ヵ月間、関係資料などを通じて学び直す中で、改めて原告を引き受けました。「政府が進める年金制度の破壊、しまかし、不当性を訴えるものだと理解しました。憲法13条、25条の約束をどう考えるのか。国に物申すチャンスだと思いました」

「まるで悪さしかしていない」と、今の国会情勢に憤ります。「政党助成金はもらひながら、國民の生活苦には見向きもしない。裁判闘争を通じていろいろ勉強してきましたが、今

の政治は信頼できません。政治は、國民一人ひとりの苦しみに気付いてほしい」